

がんばれ盲腸線 第3回

南海電鉄・汐見橋線

さて、たまには地元・阪急電鉄から離れてみよう。今回は、関西の私鉄の中でも我々にとって最もなじみが薄い南海電鉄の取材である。

ところで南海の盲腸線、すべて言えますか？

メジャーすぎる「空港線」は別格として、それ以外は「高師浜線」、「多奈川線」、「加太線」、「和歌山港線」、いまいどこを走っているのか想像できない路線が多い。阪急電鉄を生活基盤とする我々にとって、大阪湾の向こう側は路線図で見るよりも遠いのだ。そしてもう一つ、忘れられがちではあるが、南海電鉄には大阪市内に盲腸線があるのだ。それが今回の取材で訪れる「汐見橋線」だ。



今年120周年を迎える歴史ある汐見橋線は、正確には高野線の一部である。しかし現在、路線は双曲線のように岸里玉出駅で分断され、列車の行き来はできない。高野線とはまったくの別線扱いとなっている。それ故、路線名としてこそ高野線の名は残るものの、実質は汐見橋線という名称が使われるわけだ。

そしてその運行は30分に1本。2両編成の列車が、汐見橋駅と岸里玉出駅の間をひたすら往復する。大都会・大阪市内のディープエリアを走っているとは思えな

南海電鉄 汐見橋線

い過疎ぶりだ。途中の木津川駅は1日の乗降人数がわずか100人ほどであり「都会の秘境駅」という不名誉な称号を頂戴し、ささやかに人気上昇中である。（ここ数年は1日120人台になっている…鉄分だ）

路線は岸里玉出駅にとりつく部分こそ単線だが、それ以外では複線を保っている。一編成が行ったり来たりの運用において、全線複線の施設はまったく無駄である。しかしこれは「なにわ筋線」…なにわ筋の地下に関空等大阪南部と北梅田を結ぶ鉄道を作ろうというもの…との接続に、南海は汐見橋線をほぼそのまま使おうという意図があったためといわれている。たしかに実現すれば、関空からの特急列車が、梅田を経由し、新大阪・京都に向かうルートが完成、その中に汐見橋線が組み込まれる…という目論みであったのだろう。しかし、残念ながら南海側はルートをなんば駅を通るものに変更した。そのため汐見橋線がかったの栄光を取り戻すような・複線をフルに使い優等列車がすれ違うような、そんな運用はこれからも見込めそうにない。

そんなお寂しい状況にあるのが汐見橋線の現状である。

さて取材は、この程度の予備知識しか持ち合わせず、行き当たりばったりの取材を敢行した。しかしそこは取材歴30年を超えるベテラン揃いである。歩くだけでいろいろな発見をしてしまうのである。

ど派手なネオンとびっくり価格で超有名なアノ店の起源にふれたり、超巨大な不思議構造物を発見したり、合法的に無料でアノ乗り物で往復したりと、実質4時間とは思えないほどの濃密な取材となった。

このあとの記事で堪能していただきたいと思う。

取材日 2020年9月21日（祝・月）

取材メンバー T1・MS1・MS2・T1（別動）



玉出本通商店街の
出口の両脇のお店…
当然のように
「パチンコ屋」
よお出るんでしょうね。



走行写真も撮った！